

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

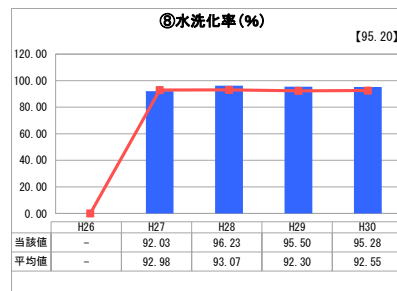
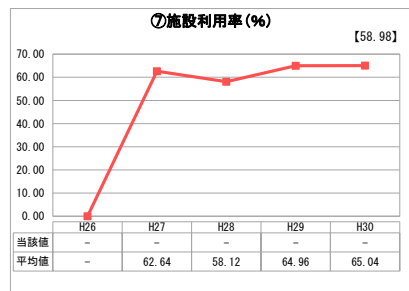
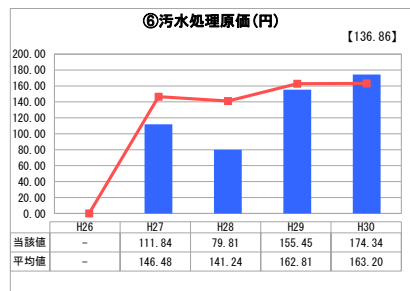
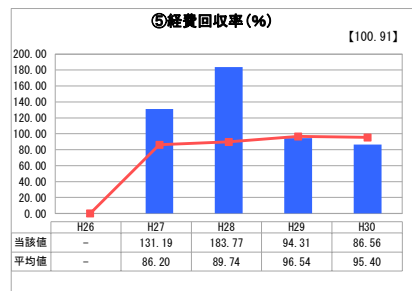
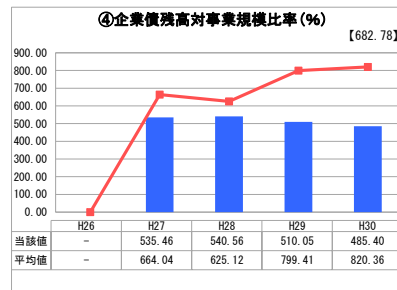
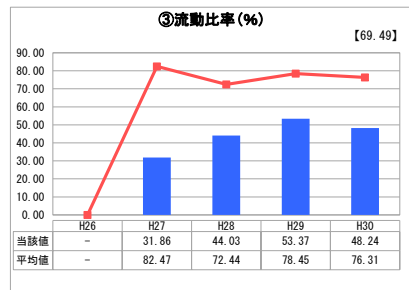
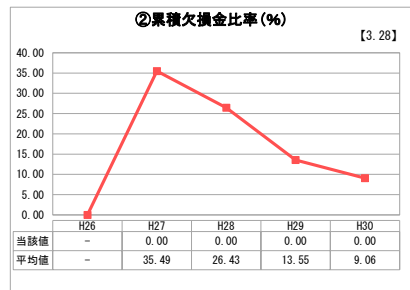
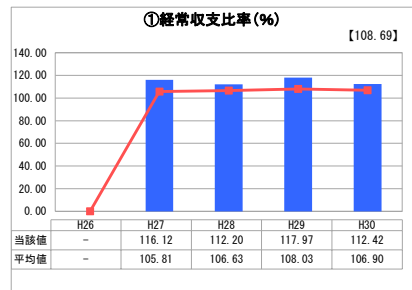
岩手県 滝沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	68.46	68.14	77.11	2,894

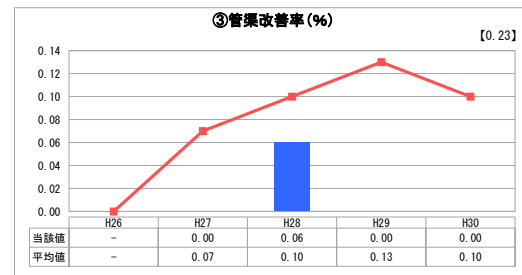
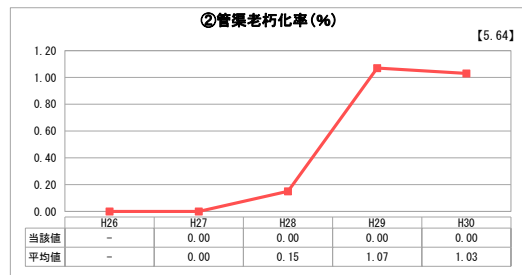
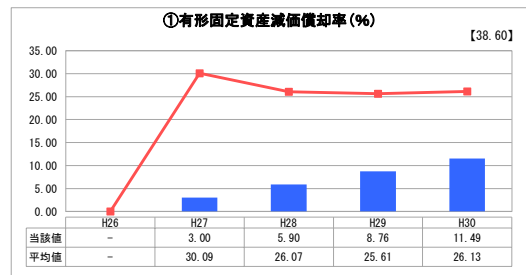
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
55,288	182.46	303.01
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
37,569	7.52	4,995.88

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

滝沢市下水道事業は、平成27年度に地方公営企業法を適用し地方公営企業会計に移行しました。

- ①経常収支比率 単年度の収支が黒字である100%を越えており、これまでの経営改善に向けた取り組みの成果が見られます。
- ②累積欠損金比率 欠損金は生じていません。今後も高水準で続くため、指数は低い値で推移することが見込まれます。
- ③流動比率 建設改良費に充てた企業債の償還金は今後も高水準で続くため、指数は低い値で推移することが見込まれます。
- ④企業債残高対事業規模比率 類似団体等と比較して低い指数となっていますが、後は施設更新のための投資が想定されることから、指数の上昇が懸念されます。
- ⑤経費回収率 今後、供用開始後の接続率が低く推移した場合は、経費回収率が下降することも想定されます。
- ⑥汚水処理原価 施設修繕や経費節減に努めておりますが、処理汚水量に占める不明水量の割合が高く、なつたことにより汚水処理原価が増加しました。
- ⑧水洗化率 下水道整備のほか、浄化槽の整備についても普及促進を図り、下水環境の整備に努めています。

### 2. 老朽化の状況について

滝沢市下水道事業は、流域下水道の下水処理施設を使用しているため、本市では主に下水道管やマンホールの維持管理を行っています。これまで、小規模な修繕の実施はありましたが、大規模な修繕は発生していません。

- ①有形固定資産減価償却率 下水道建設開始からは30年以上が経過しましたが、現在も継続して整備している状態であり、減価償却率は低い指数となっています。
- ②管渠老朽化率 現在のところ法定耐用年数を超えた管渠はありません。
- ③管渠改善率 法定耐用年数の超過はありませんが、長寿命化計画により計画的に改築しています。また、開発者から帰属を受けた管路の老朽化が著しいことから、対策を講じる必要があります。

### 全体総括

滝沢市下水道事業は、将来にわたり安心して下水道を使用させていただくため、「環境にやさしく快適な下水道整備」と「下水道経営基盤の充実」を軸に効率的な整備と経営の健全化に努めています。下水道経営の比較分析によると、類似団体と比較して、経営は概ね健全な状態にありますが、下水道建設開始時の急激な都市化とともに、今後は多くの下水道施設が同時期に法定耐用年数をむかえることが見込まれます。老朽化下水道施設の長寿命化を図りながら、計画的に施設の更新を実施していくことが必要ですが、突発的な大規模修繕工事にも対応できる資金の確保を目指して更なる経営努力を図ります。なお、平成30年度に下水道使用料の料金改定を行いました。今後流域下水道の法適化にともない処理単価の大幅増が見込まれるため、定期的に検証する必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。